

農業
振興課

「比婆牛」の認知度向上に向けた取り組み

比婆牛の広告掲載

市は比婆牛の認知度を高めるため、比婆牛のPR広告を県内各地に掲載しました。

掲載箇所は、MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島内の看板をはじめ、備北交通株式会社が運行する高速バスの背面ラッピング、広島バスセンターの電子掲示板、山内西地区集落排水施設の壁面などです。

比婆牛は、平成26年度から認証制度をスタートさせ、平成28年には「地域団体商標登録」、令和元年には「地理的表示（GI）保護制度」に登録されるなど、年々ブランド力が向上しています。

今後も、比婆牛の消費拡大に向けて積極的にPRを行うとともに、増産に向けた取り組みへの支援を行うことで、生産から販売までの基盤を固め、市内のさらなる和牛振興を図ります。

広告掲載一覧

掲載時期	掲載場所
令和3年4月から	MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
11月から	高速道路沿い看板のリニューアル（尾引町）
令和4年1月から	広島バスセンター電子掲示板
	備北交通高速バス背面ラッピング
3月から	山内西地区集落排水施設壁面（木戸町）



広島バスセンターの電子掲示板（券売機付近）

行政
管理課

市役所業務の効率化に期待

市職員向けRPAセミナーを開催



セミナーを受講する職員

3月10日、市職員向けにRPAセミナーを開催し、27人が参加しました。

RPAはロボティック・プロセス・オートメーションの略語で、定型業務をソフトウェア型ロボットにより自動化させることで、業務の効率化が期待されるデジタル技術です。市は令和元年度からRPAを試行導入し、その効果検証を行う中で庁内業務への導入を進めています。

今回のセミナーは、RPAの導入業務拡大を見据えて、職員の理解を深めることを目的に行い、受託事業者から講師を迎え、パソコン上での簡単な操作を自動化するロボットの構築と実行を体験しました。

参加した職員は「構築は難しかったが、事務作業のさまざまな場面で利用できそう」と期待を込めました。

市は今後もRPAなどのデジタル技術導入を含めた行政事務の改善により、市民サービスの向上に努めていきます。

生涯
学習課

地域のシンボルが里帰り

「新免郷谷のエノキ」の後継樹里帰り式



里帰り式で後継樹の受け渡しを行った

3月15日、新坂自治振興センターで、県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」の後継樹里帰り式を開催しました。

新免郷谷のエノキは、高さ30メートル、幅6メートルの太木で、2本の木が合わさって、二又になっていることが特徴です。

この太木の二又の片方が令和元年に倒れたため、市は巨樹・名木などの後継樹増殖を進めている森林総合研究所に、後継樹の接ぎ木増殖を要請していました。

今回、後継樹として6本の苗木が育つため、里帰りすることになり、親木のそば、新坂地域、国営備北丘陵公園に、それぞれ2本ずつ植樹されました。

苗木を受け取った、新坂自治振興区の藤井岑雄会長は「地域のシンボルとなるような立派な木を目指して、大切に育てたい」と話しました。